

＝今回は、第3回目の講座「放射線副読本」でまとめました＝

“放射線副読本”の内容、

その問題点を考え、父母の疑問に答える

【テーマに取り上げた経過】

2018 年秋、当原発なくす兵庫の会へ、「県下の高校で文部科学省発行の放射線副読本が使われている、生徒がそのまま鵜呑みで良いのか」との相談がありました。2019 年 1 月になると神戸・尼崎・東播地域の小学生の父兄から「子どもが持って帰ってきた、こんな放射線副読本で教えられているがどう考えたらよいか」と問い合わせがありました。

1 月に簡単な「見解」を出しましたが、学習会の要望もあって開催したものです。

福島の避難者からも深刻な声

☆☆ 4 月 1 1 日の講座には、各団体や福島県からの避難の方も含め 1 2 名が参加、“放射線副読本”について勉強しました。まず、副読本の記載内容をかいつまんで説明、所々問題点ありの部分を指摘しました。その部分について、別途用意された資料で、認識を深める解説が行われました。

放射線副読本とは

小学生向けと中高生向けがあり、記述順序は違いますが内容は殆ど同一で、小学生向きは文章にルビがふってあります。

『中高生副読本の目次』

はじめに

第1章 放射線、放射性物質、放射能とは

1-1原子と原子核 (1)原子と原子核 (2)原子から出る放射線

1-2放射線の種類と性質 (1)放射線の性質 (2)放射線、放射性物質、放射能 (3)放射能の減衰と半減期

1-3放射線の利用

1-4放射線・放射能の単位と測定 (1)放射線・放射能の単位 (2)自然・人工放射線からの放射線の量 (3)放射線の測定

1-5放射線による健康への影響 (1)内部被ばくと外部被ばく (2)放射線量と健康との関係

第2章 原子力発電所の事故と復興のあゆみ

2-1福島第一原子力発電所事故とその後の復興の様子 (1)福島第一原子力発電所(2)放射性物質の放出と事故後の放射線量の変化(3)住民の避難と帰還 (4)健康影響調査の実施

2-2風評被害や差別、いじめ

2-3食品安全に関する基準

2-4地域の復興・再生に向けて振り返ってみよう！

索引

非常時に放射線や放射性物質から身を守る方法

【幾つかの特徴】

☆☆ “放射能”について、その発生状況や諸数値などは、誰もが常識的に知っておくべき必要な知識は得られる。ただ原爆・原発など人工的影響もあるが、常に宇宙・食物・空気・大地などから放射線の中で暮らしている事を強調している。

☆☆ “はしがき”文にあるように風評被害や避難の子ども達へのいじめなどのためにこの副読本を作ったとの主旨を述べている。

☆☆全体を見ると、東電福島第一原発事故の原因には全く触れず、8年間で放射線量が減少してきたので、地域の復興・再生へ乗り越えていこうとのメッセージが軸となっている。

☆☆「放射線を受けるとどうなるの」では、小学生向けでは「広島・長崎に原子爆弾が落とされ、多くの人々が放射線の影響を受けています・・・しかし、放射線が人の健康におよぼす悪い影響については、まだ科学的に十分には分かっていません」と記載している。中高生向けでは「放射線の有無ではなく、その量が影響している」とし、100ミリシーベルト以上受けたときガンになるリスクが上昇する。だがこれは野菜を食べない人や高塩分を食べ続ける人がガンになるリスクと同程度だ。また子どもに伝わる遺伝性影響の報告はないと述べている。

☆☆福島事故で放出された放射性物質の量は、チェルノブイリ事故の7分の1で、福島県が県民に実施した内部被ばくによる放射線量の検査結果よれば「検査を受けた全員が健康に影響が及ぶ数値でなかった」と記載している。

【問題点への指摘】

☆☆連日 6000～8000人の原発作業員の被ばく線量の上限は、通常1年間で50ミリシーベルト、5年間で100ミリシーベルト、緊急時は作業の期間中100ミリシーベルトと定められていましたが、収束出来ないので特例措



置として250ミリシーベルトまで引き上げられた。こうした過酷な状況下で作業に当たっている「緊急作業従事者」は約2万人に上るとされ死亡者まで発生している事を記載していない。

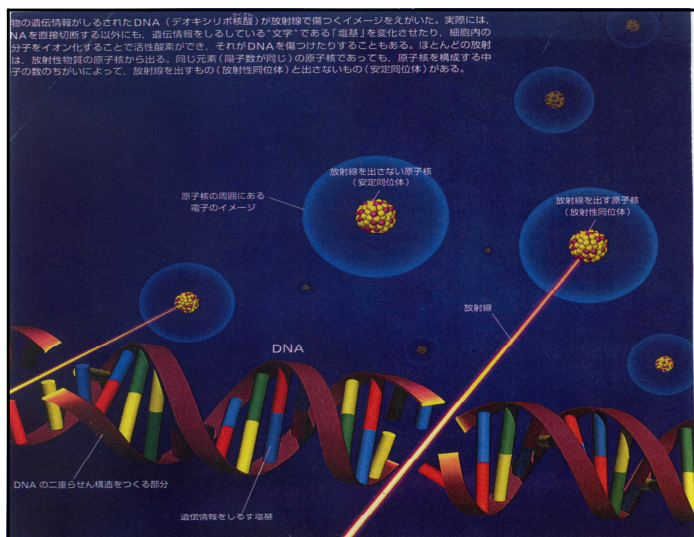
☆☆1977年国際放射線防護委員会の勧告「合理的に可能な限り低く抑えるべきである」＝「ALALA, as low as reasonably achievable」によって一般の人の限度が当面1msb/年となっていることを無視している。

☆☆政府が調査しないので福島県が当時18歳以下の37万人に実施している甲状腺ガン調査でガンの疑いが2018/末で272人と発表していることを無視している。

☆☆今も避難者が多く存在していることは記載しているが、親子・家族ばらばら、全国32の裁判所で闘わざるを得ない実態を一行も書かない。

☆☆「遺伝はない」と言い切っているが、人体のDNAは、物理的な原因や化学的な原因などで傷付けられ放射線もDNAを傷付ける原因の一つ。「細胞に傷がつき遺伝子に異常（突然変異）が生じることがある」と云うのは常識と思うが、これを否定している。

☆☆兵庫県篠山市は全市民に安定ヨウ素剤を配り放射能被害から命を守る説明を行っている。



放射線によるDNAの破壊・ニュートンより

【参加者全員が発言しました】

※文部科学省発行だから、せめて JCO 事故だけでも載せるべきと思う。(注：1999/9/30、JCO 東海事業所の核燃料加工施設内で核燃料を加工中に、ウラン溶液が臨界に達し核分裂連鎖反応が発生、この状態が約 20 時間持続。これにより、至近距離で中性子線を浴びた作業員 3 名中、2 名が死亡、1 名が重症となった他、667 名の被曝者を出した。)

※アメリカの「ラジウム・ガールズ事件」も有名なのに書いていない。(注：夜光塗料を時計の文字盤に塗ることで放射線中毒にかかった悲慘な女性工場労働者の事件)

※広島・長崎の膨大な ABCC 等の資料もあり、最近 70 年前の被曝者の内臓資料が帰ってきて測定するとま

だ内部被曝が続いている。

※福島でホールボディ検査を受け「異常なし」と言いつつバッジを付けよと言われ余計に不安な毎日だった。こんな副読本を福島の人が見たら大変なことになる。

※三菱など原発に関わっている者は、怖さを知ってるから「自分の身を守る」ため万全を期すが、放射能に無知な人は「(副読本のように)安全だ」と言われたら大変だ。

※「避難者は帰還せよ」と安倍政権は言うが、この副読本執筆者たちがまず福島現地で暮らすべきだ。

※教科書は、戦前は国定教科書。戦後は憲法のもと検定教科書となった。そのため掲載されるデータなどは正確になるよう努力が重ねられている。(現実として教科書の採択は行政が行っているが)。小中学校は、検定合格した教科書からどれを採用するかは府県ごとの教育委員会が決める。高校は学校が採用を決める。

一方副読本はどうか、教科書と違って検定は受けない。よって今回の様に“放射線活用派”の専門家たちによって、恣意的なデータだけで記述される副読本がつくられる。だからかつて『同和副読本』『道徳の副読本』などで物議を醸したことがある。配布については、各府県教委や学校によって異なり、府県教委によっては文科省から大量に降りてくると自動的に各学校へ下ろすカタチになっているようだ。

現場での使い方は一応“自由”で、使用・不使用を含め使い方の工夫はできる。

※しかし受け取る子ども達は、「教科書と副読本」の区別はつかない。

※この放射線副読本を含め2018年文科省予算は1.8億円で、2018年秋以降全国でいっせいに配布された。

【まとめ的に】

専門家などの意見も聞いて、解説リーフ等の作成を検討したらどうか、ということになりました。

「恒常的な学習講座」の案内

日時：2019年6月6日・木・15~17時

場所：兵商連会館（阪急・阪神・山陽・神鉄・高速の新開地駅から南3分）

第4回＝『原発ゼロ基本法案・実現をめざして』

講演：吉井英勝元衆議院議員

以下予定・・・

第5回・8/8＝希望されている

テーマで企画

